○次の三つの文は、物語の冒頭の文章です。これらを読んで後の問いに答えなさい。

読

１6

書き出しの工夫を考えよう

 　 年　　組

ゴール　物語の頭文の工夫を読み取り、書きえてみよう。

|  |  |
| --- | --- |
| 工夫 |  |
| （例）書き出しを会話文にすることで、読者をお話に引き込む工夫をしている。こ | Ａ |
|  | Ｂ |
|  | Ｃ |

二　Ａ～Ｃのいずれかの頭文の工夫を使って、「もも太」の冒頭文を書きえましょう。

「少年と海」　加能作次郎作より

｢お父、また白山が見える！｣

　外から帰って来たため吉は、えん側にあみをすいている父親のすがたを見るやいなや、まだ立ち止らない中にこう言いました。このため吉の言葉に何の意味があるとも思わない父親は、

「そうかい。」とちょっとため吉の方を見ただけで、

………

むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。

おじいさんは、山にしばかりに、おばあさんは川へせんたくに………

一　三つの冒頭文それぞれの読者の興味を高めるための工夫を読み取って、表に書きましょう。

Ａ

ぼう

・冒頭文の工夫を見つけることができた。　　　　　　　　　　（　　　）

・工夫を使って、冒頭文を書き換えることができた。　　　（　　　）

ふりかえり

ろう

活用する工夫（　　）

きち

寒い冬が、北方から、きつねの親子のすんでいる森へやってきました。

ある朝、ほらあなから子どものきつねが出ようとしましたが、

「あっ。」

とさけんで、目をおさえながら母さんぎつねの所へ転げてきました。

………

Ｂ

「手ぶくろを買いに」新美南吉作より

「とう明かい人」　江戸川乱歩作より

　読・16　物語の冒頭文を書き換えてみる。

そのふたりの少年は、あんなこわいめにあったのは、生まれてからはじめてでした。

春のはじめの、ある日曜日、小学校六年の島田君と木下君は、学校の先生のおうちへあそびにいって、いろいろおもしろいお話を聞き、夕方になって、やっと先生のうちを出ました。そのかえり道の出来事です。………

Ｃ

え

らん

○次の三つの文は、物語の冒頭の文章です。これらを読んで後の問いに答えなさい。

読

１6

書き出しの工夫を考えよう

 　 解　答　例

ゴール　物語の頭文の工夫を読み取り、書きえてみよう。

|  |  |
| --- | --- |
| 工夫 |  |
| （例）書き出しを会話文にすることで、読者をお話に引き込む工夫をしている。こ | Ａ |
| 冬の来を最初に書いて、これから何かが始まるドキドキ感を持たせている。 | Ｂ |
| 書き出しに、事件がおこったことを知らせる1文を持ってくることで、読者の興味を引き付ける工夫をしている。 | Ｃ |

二　Ａ～Ｃのいずれかの頭文の工夫を使って、「もも太」の冒頭文を書きえましょう。

「少年と海」　加能作次郎作より

｢お父、また白山が見える！｣

　外から帰って来たため吉は、えん側にあみをすいている父親のすがたを見るやいなや、まだ立ち止らない中にこう言いました。このため吉の言葉に何の意味があるとも思わない父親は、

「そうかい。」とちょっとため吉の方を見ただけで、

………

むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。

おじいさんは、山へしばかりに、おばあさんは川へせんたくに………

一　三つの頭文それぞれの読者の興味を高めるための工夫を読み取って、表に書きましょう。

Ａ

・冒頭文の工夫を見つけることができた。　　　　　　　　　　（　　　）

・工夫を使って、冒頭文を書き換えることができた。　　　（　　　）

ふりかえり

ろう

活用する工夫（ ３ ）

きち

「ドンブラコ、ドンブラコ」大きな桃が流れてきました。

むかしむかしあるところに、おじいさんと、おばあさんが住

んでいました。

おじいさんは、山へしばかりに、おばあさんは川へせんたくに・・・

寒い冬が、北方から、きつねの親子のすんでいる森へやってきました。

ある朝、ほらあなから子どものきつねが出ようとしましたが、

「あっ。」

とさけんで、目をおさえながら母さんぎつねの所へ転げてきました。

………

Ｂ

「手ぶくろを買いに」新美南吉作より

「とう明かい人」　江戸川乱歩作より

　読・16　物語の冒頭文を書き換えてみる。

そのふたりの少年は、あんなこわいめにあったのは、生まれてからはじめてでした。

春のはじめの、ある日曜日、小学校六年の島田君と木下君は、学校の先生のおうちへあそびにいって、いろいろおもしろいお話を聞き、夕方になって、やっと先生のうちを出ました。そのかえり道の出来事です。………

Ｃ

え

らん